

「保育手帖」を 保育の質向上に活かす

実践女子大学 井口眞美

保育手帖を活用する

法令、条例等

- ・ 日野市で大切にしていることを共通理解する

事例集

- ・ 自園の保育に取り入れる
- ・ 自分も事例を書いてみる

ふり返しシート (チェックリスト)

- ・ 自らの保育を見直す視点として活用する
- ・ 気づいたこと、具体的な事例は記録に残す

WGに参加しての感想

○話し合いを経て、自分の保育について感じたこと

- 他園の活動を知ることができ、勉強になった。自分の保育の参考になった。
- 明日から早速活かしていられると思うものもあった。
- 自身は保育経験が短いので、経験年数の長い先生たちの話は、とても参考になった。
- 自園が提出した事例のブラッシュアップだったので、客観的にみられて学びになった。

○他園の事例を読んで学んだこと、自分の保育の改善に役立ったこと

- 母乳を預かる産休明け保育は、これまで経験したことのないもので難しさも感じたが、今後経験するときは、参考にしたいと思った。
- 小麦粉粘土遊びは、アレルギーの子どもも増えているので、どのようにしたらみんな遊べるか、今後考えていきたいと思った。
- 保育の考え方や知識の幅が広がった。
- 食育の大切さを改めて感じた。明日から、改めて見直しをしたいと思った。
- 学童保育に対しての学びも多く、就学に向けての参考にしたいと思った。

○ワーキンググループに参加して思ったこと

- 他園の先生方と交流ができ、色々な考え方を聞くことができ、とても参考になり、有意義な時間だった。
- 様々なやり方があるので、一つのテーマでも色々な意見が交わされて新鮮だった。
- 他園の先生と顔を合わせる機会すらほとんどなかったので、どんな考えを持っているのかと不安だったが、保育に対する思いは共通のものがあると分かり、距離が近くなった。
- 保育経験年数が短いので、学びの時間となり有難く感じている。
- 今後、保育について気軽に話ができる関係性ができたことをとても嬉しく思った。

保育手帖の作成過程における意義

保育の言語化



- 子どもの育ちを言葉にする（事例の執筆）
- 他者に伝える言葉をもつ（校正、修正）
- 大切にすべきこと、保育の方向性を見つける（考察、キーワード探し）

情報の共有



- 同僚と保育観や子どもの育ちを共有する
- 他者に伝える（他園、保護者、子ども）
- 自分の保育に取り入れる

子どもを主体と考えて保育を展開する

常に子どもの意見・気持ちを聞き、それを大事にして保育を進める【聞く保育】

- ・ 対話によって、子どもの気持ちを聞く⇔大人側の想い、願いを伝える
- ・ 子どもの意見、行動を温かく見守る、心で応援する <安心の輪、アタッチメントの形成>

その子の発達・興味関心・意見を理解し、環境を整える【可能性を広げる保育】

- ・ 子どもが安心して過ごしたり遊び込んだりできるような環境を整え、子どもの可能性を広げる
- ・ 子どもにとって足場かけとなる環境を設定し、探究心を育む環境を整える。

その子の育ちを保護者や職員と分かち合い、楽しむ【みんなで楽しむ保育】

子どもにも、子どもの権利があることを伝える【子どもと共に進める保育】

ドキュメンテーションを活用する

保育者同士、子どもたちと保育者のリフレクションの場を定着させましょう

- ・ 子どもたちの興味や思い、イメージ、発想、思考、協力の仕方をより具体的に理解する
- ・ 次の活動計画や環境の構成に役立てる

子どもたちにとって、自らの活動を振り返る機会を設けましょう

- ・ 自分たちの興味や疑問を共有し、意欲的に次の活動に取り組んでいく能動性の維持につながる
- ・ 活動の中核に子ども自身の問いや思い、仮説やアイデアが取り入れられ、主体的な活動となる

子どもたちと共に保育実践を作っていきます

- ・ 保育者が子どもたちと話し合い、次の活動を計画し、実践する

遊びの中の「探究的な活動」に着目してみましょう

- ・ 探究的な活動に着目することで、話し合いの焦点が定まる